

Feeling excited

"Dance with Heart"
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.
The Kikunokai Dance Troupe
Representative: Satoshi Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031
東京都新宿区西落合 2-21-23
03-5983-6001 (代表)
菊の会 京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町 10
075-712-8701 (代表)
http://www.kikunokai.co.jp

Dancing from the heart



ご挨拶

舞踊集団 菊の会
代表 畑 聡

新しい年を迎え、皆様におかれましては益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。
今年も「伝統と創造」をテーマに日本の踊りが身近な存在として、楽しく面白く感じて頂けますよう菊の会一同、心を一つに精進し、皆様により良い舞台をご覧頂けますよう勤めて参ります。
変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。
どうぞ宜しくお願い申し上げます。

季ノ葩三番曳



茨城県
神栖市立深芝小学校
校長 池田 純子

『貴重な体験をありがとう』

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演事業―」として、深芝小学校で公演いただきありがとうございました。伝統芸能に接することの少ない児童にとって、菊の会の皆様の公演は、ただ単に伝統芸能を見るにとどまらず、日本人としての心の奥底に潜んでいる魂を揺さぶるものとなりました。子供たちは身を乗り出しながら踊りを見たり、リズムに合わせて体を揺らしたりと一人一人が楽しい時間を過ごしました。また、高学年の児童の代表は、「八木節」の踊りを菊の会の皆さんと一緒に披露することができ、思い出に残る体験ができました。

ここで、児童の感想の一部を紹介します。「菊の会の皆さんは、動きがそろっていて『一体感』や『迫力』があり、とてもすごいと思いました。」「初めて、伝統的な踊りを見ました。とってもきれいで感動しました。いろいろな地域の踊りが見られてよかったです。」「踊りが複雑でできないと思ったけれど、優しく何度も丁寧にアドバイスをしてくださり、楽しく踊ることができました。ありがとうございました。」



オープニング「さなぶり春駒」

今回の公演を通して、皆様から児童は「たくさんさんの笑顔と元気をいただきました。さらに発想力やコミュニケーション能力等様々な事を学ぶことができました。校長として、子供たちに「菊の会」のすばらしい公演を見せることができたこと、「本物にふれる」という機会を得ることができたことは、この上ない喜びです。本当にありがとうございました。これからもすばらしい舞踊を創り上げ多くの人々に感動をお与えください。皆様のご活躍を応援しております。



生徒達による「八木節」



「飾山囃子」

2020年菊の会公演予定 INFORMATION

- ◆新春公演『燃えよ日本列島』
日時：1月11日(土) 14:00 開演
会場：スターツおおたかの森ホール [千葉県流山市]
- ◆千代田町共催『日本のおどり』
日時：2月9日(日) 14:30 開演
会場：コスメ・ニスト千代田町プラザ [群馬県邑楽郡千代田町]
- ◆『民謡 原田直之と日本の伝統芸能』
日時：2月22日(土) 14:00 開演
会場：佐倉市民音楽ホール [千葉県佐倉市]
- ◆『日本のおどり』
日程：4月12日(日)
会場：サンシティ越谷・小ホール [埼玉県越谷市]
- ◆『日本のおどり』
日程：5月17日(日)
会場：鹿嶋勤労文化会館 [茨城県鹿嶋市]

(※予定を変更する場合がございます。何卒ご了承下さいませ。御来場の折、時間と場所をご確認下さいませ。)

皆様のご参加をお待ちしております。

第38回 舞踊集団 菊の会 友の会懇親パーティー

(日時) 2020年4月25日(土)
12:00 開宴

(会場) ハイアットリージェンシー東京
センチュリールーム(地下1階)



『伝統を未来へ』

京都国立博物館
館長 佐々木 丞平

ICOM京都大会2019の閉幕を飾る菊の会

昨年9月1日から7日まで京都で国際博物館会議(ICOM京都大会2019)が開催されましたが、最終日の7日、その閉会式が京都国立博物館でとりおこなわれました。その閉会式の中で菊の会による日本のおどりが披露され、大会を華やかに、また、格調高く閉じることができました。

ICOM京都大会2019では世界120カ国から4600人も文化関係者が集い、「伝統を未来へ」という共通のテーマの下に様々な議論がなされました。京都はこのテーマを議論するに最もふさわしい場でありました。菊の会の皆様は演じて頂いたおどりは正にこのテーマそのものであったと思えます。文化というものは過去の暗みを見ていたのではその行く先は暗く、未来のことのみを見て過去の伝統を無視したのでは極めて危ういものとなります。文化がその時代を超えて永く継承され生き続けていくためには、過去と未来をいかにその視野に入れて活動するにかかっているように思えます。その意味では菊の会が目指していることは、

博物館も今時代の大きな転換点にさしかかっています。単に古い伝統的な文化財を保存し、それを公開するという本来の役割だけでは、めまぐるしく変化する今の時代に貢献することは非常に難しくなっています。我々も常に未来を見つめ、「護る」ことの意義を考えながら博物館活動を続けていきたいと思えます。

博物館も今時代の大きな転換点にさしかかっています。単に古い伝統的な文化財を保存し、それを公開するという本来の役割だけでは、めまぐるしく変化する今の時代に貢献することは非常に難しくなっています。我々も常に未来を見つめ、「護る」ことの意義を考えながら博物館活動を続けていきたいと思えます。

プロフィール
1941年兵庫県姫路市生まれ。
京都大学文学部 大学院文学研究科で美術史学を専攻。京都府教育委員会、文化庁で文化財保護行政に携わる。その後京都大学教授、京都大学附属図書館長、独立行政法人国立文化財機構理事長を経て現在京都国立博物館館長。専門は日本近世絵画史。著書「円山応挙研究」で國華賞、日本学士院賞受賞。2000年フンボルト賞受賞。2013年京都市文化功労者表彰、2017年京都府文化賞特別功労賞受賞。他に「文人画の鑑賞基礎知識」一冊刊。放浪する「文人」など。

舞踊集団 菊の会 事務局 〒161-0031 東京都新宿区西落合 2-21-23 Tel 03-5983-6001 / Fax 03-5983-6002

菊の会

http://www.kikunokai.co.jp/



日韓交流おまつり in Seoul 2019 新たな明日へ

日韓の心を紡いだ 菊の会の舞



日韓交流おまつり in ソウル
日本側事務局長
久田 和孝



「賀の祝」

2019年9月1日に韓国ソウル市のCOEX Dホールで開催された日韓最大の文化交流行事「日韓交流おまつり2019 in ソウル」に、日本を代表して3年ぶりにご出演を頂きました。戦後最悪といわれる日韓関係の中、政治経済の交流はもとより、今は文化交流でさえも途絶える厳しい状況での開催でした。実際に出演予定だった日本側の団体のいくつかは現地での反日デモや治安に不安を抱き渡航と出演を取りやめました。開催そのものが危ぶまれる中、菊の会さんは「こういふ時だからこそ」と、躊躇されることなく、その使命と一切の期待を担ってご出演下さいました。日本文化の開放も久しく、

今では韓国でも日本の様々なポップカルチャーが浸透し、多くの市民もそれに触れ楽しむことができます。しかし日本の本場の姿である伝統芸能や「美」に触れる機会が少ないとの声が多くあるのも事実です。



キム・ドクス氏中心のハンウルリム芸術団とコラボレーション

菊の会さんは2011年に駐韓日本大使館公報文化院で公演下さったほか、日本政府が海外の地方都市で展開するジャパンウィークにて、忠清北道清州市の国立大、市立大などで本公演を行い、以来本行事に3度ご出演いただく等、多くのファン、市民の心を掴んでおられます。

特に今年は韓国を代表する伝統芸能家である金徳洙氏の演奏集団「サムルノリ」と共に舞台入場するシーンが印象的でした。「韓日の文化交流の扉を開け！」と金氏の雄叫びに呼応し、打楽器のリズムに合わせて踊り進む菊の会の皆様、艶やかで勇壮な姿は、場内の空気をのみ、多くのメディアでも報道されました。

9年前に清州市で菊の会の公演を見たという方も会場を訪れるなど、これまでに時いて下さった日本文化の種が、今一斉に芽吹く時代となりました。

今回の日韓交流おまつり2019 in ソウルにご出演頂いた意義は誠に大きく、国家間の摩擦が大きい時、真に心を紡いでくれるのが文化、とりわけ「踊りの心」であることをあらためて証明して下さいました。心より感謝申し上げます。

文化庁主催 ASEAN 諸国の舞台芸術家とのコラボレーション

「多様性・創造性・持続可能性」テーマの舞台に出演

ASEAN 文化年2019 「多様性・創造性・持続可能性」のテーマのもと、文化庁主催タイ文化賞其催による『VIVA ASEAN』The Best of ASEAN Performing Arts in Japan』が2019年12月14・15日、東京フォーラムに於いて開催されました。ASEAN 諸国10か国(ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)から選出された20名の舞台芸術家に加え、日本を代表して菊の会から畑聡代表と宮沢りかが出演。式典には宮田亮平文化庁長官はじめタイ文化省副大臣などが出席されました。



各国独自の衣装・音楽・舞踊・が披露される中、この日の趣旨を踏まえ新たに振り付けられた「季ノ葩の舞」を披露したほか、華麗で迫力のある合同演目にも参加し、文化交流の舞台に花を添えました。



出演者の皆様と記念撮影

千代田町共催事業 菊の会公演

文化の薫り高い まちづくりを目指して

群馬県千代田町 町長 高橋 純一

と、菊の会の皆様、この度は、舞踊集団菊の会会報「日本のおどり」への掲載の機会をいただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、菊の会の皆様との出会いは、今から三年ほど前にお隣の明和町での公演を拝見したことでした。踊り手の方々の芸術的で洗練された動きが非常に印象的であったと同時に、演目を通じて日本の伝統芸能を伝え残そうとしている活動にも感銘を受けました。その日の体験は、私にとりましても日本の美、日本の心を改めて知ることができた非常に貴重なものとなりました。

そして、今回御縁があり、我が千代田町でも共催事業として、令和二年二月九日にコスメ・ニスト千代田町プラザにおいて、菊の会の公演が開催されますことを大変喜ばしく思っております。会場となる千代田町プラザは、本町の文化の拠点ともいべき施設であり、そこで披露されることにな

本町といいたしましても、町民一人ひとりが生き生きと充実した生活を送れるよう、文化の薫り高いまちづくりを目指し、今後も芸術文化の振興に積極的に取り組んでまいりたい所存であり、今回の共催事業「日本のおどり」公演が契機となり、郷土に継承されている歴史や伝統が一段と広がりと深まりを見せることを期待しております。

結び、畑代表をはじめ、会員の皆様方との出会いに深く感謝申し上げますとともに、菊の会がますますの御発展と御活躍を心からお祈り申し上げます。



日・ペルー 交流年 120周年に寄せて

日本人移住120周年に寄せて

菊の会ペルー支部の活躍



駐ペルー日本国特命全権大使
土屋 定之



菊の会ペルー教室「豊年こいこい節」



菊の会ペルー教室の子供達による「秋田おぼこ」

年頭に当たり、皆様の御健康と御多幸をお慶び申し上げます。

日本人のペルー移住120周年に当たる昨年、日本とペルーは、「日ペルー交流年」を記念し、政治経済、文化等の各分野において多くの記念行事を実施し、両国の関係を大きく前進させました。同年7月の眞子内親王殿下のペルー御訪問や11月の租税条約締結をはじめ、活発な文化活動や人的交流など、両国関係と国民間の相互理解が一層深まる

年になりました。菊の会の皆様とペルーのお弟子さん達におかれましても、第47回日本文化週間・おどりフェスティバルをはじめ、リマ市に限らない多くの舞台で御活躍頂いた年でした。皆様の長年にわたる文化交流の推進に向けた御尽力と御熱意に心より敬意を表します。

ペルーは、日本にとって中南米諸国の中で最も長い外交関係を有する国であり、南米で最初に日本人の組織的移民を受け入れてくれた友好国です。この友好関係が現在まで発展していることの大きな要因として、ペルー日系社会がこれまでペルーの発展に大きく貢献し、あらゆる分野で両国の架

け橋として重要な役割を果たしてこられたことが挙げられます。日本にとつての強い味方であるペルー日系社会、そして同社会と菊の会の連携による精力的な御活躍は、両国の文化交流の観点から大使館としても心強く、また有り難く感じております。踊りが好きなペルー人にとつても、日本の伝統舞踊を知り、学ぶことのできる機会が国内にあることは非常に喜ばしいことだと思えます。

最後に、菊の会の皆様の日本の伝統文化の継承・発展、そして国際的な文化交流への長年の貢献に改めて敬意を表しますとともに、今後の益々の御発展をお祈り申し上げます。



第47回 日本文化週間「おどりフェスティバル」の様子